

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5 年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鳥栖市立鳥栖小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・校内研究で取り組んでいる「つなぐタイム（考えを出し合う・意見交流を行う）」を教員が共通理解・共通実践することで、児童の学力向上につながってきている。今年度も、児童が目的をもって主体的に「つなぐタイム」に取り組むような手立てを考え、児童の学力向上をめざす。 ・学校運営協議会発足時から取り組んできたプロジェクトは順調に遂行することができている。今年度も、学校と地域がさらに「つながる」ために、積極的に地域の「人」や「もの」から学びを深めていくことで児童の郷土に対する思いや誇りを高める。 ・昨年度は、校時を変更することで、児童も教職員も比較的余裕をもって放課後を過ごすことができた。今年度は、さらに業務改善（成績2期制等）を進め、教職員の時間と心の余裕を生み出し、授業づくり等の「教師本来の業務」に専念できるような体制を整える。
------------------	--

2 学校教育目標	心豊かで、たくましく、自ら学ぶ “とすつ子”の育成 ～合言葉『つなぐ』～ ◎やさしさいっぱい ・相手の気持ちを考えて行動できる子 ・社会や地域に目を向け、多様性を認め、人や自然を大切にできる子 ◎元氣いっぱい ・仲間と共に健康安全に気をつけ、体を鍛えることができる子 ・よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 ◎やる気いっぱい ・進んで学ぶことができる子 ・仲間と話し合い、考えを認め合い、根気強く解決できる子
----------	---

3 本年度の重点目標	①児童が安心して安全に生活でき、学力向上を図る学校づくり ②開かれた学校づくりの推進（学校運営協議会） ③教職員の資質向上の推進（授業力、生徒指導力） ④業務改善・働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価			最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●教員による共通理解と共通実践	●児童が他者の多様な考えを認め合う力や、多面的・多角的に考える力を育成するための「話し合う活動（つなぐタイム）」を、授業に取り入れることができた と回答する教員80%以上	・校内研修を通して、「話し合う活動（つなぐタイム）」の効果的な取組の在り方を共通理解すると共に、研究教科以外の教科も含めた授業を通して共通実践を進めていく。 ・教員へのアンケートを実施し、「話し合う活動（つなぐタイム）」の実践への意欲付けを行う。	A	・算数科と教科「日本語」、自立活動を始めとしても教科等での「話し合う活動（つなぐタイム）」の充実を図り、研究授業及び授業研究会を5本行う等、実践を重ねることができた。 ・「話し合う活動（つなぐタイム）」を、授業に取り入れることができた と回答する教員が86%であった。	A	・11月9日の鳥栖中学校幼小一貫教育研究発表会に出席して研究発表会を開催する等、日々の実践を重ねることができ、その結果早発当日の感想でも「話し合う活動（つなぐタイム）」に対する肯定的な意見も多く頂くことができた。 ・「話し合う活動（つなぐタイム）」を、授業に取り入れることができた と回答する教員が81.9%であった。目標の8割は達成できたが中間評価よりかはやや下がったため今後の課題としても意識していく。		
	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習の質・量の向上	○学年に応じた家庭学習時間を達成している児童の割合75%以上 ○自主学習に取り組む児童の割合80%以上	・家庭教育の手引きを発行し、家庭学習に対する意識の向上を図る。 ・発達段階に応じた自主学習に取り組ませ、主体的に学ぶ児童の育成を図る。	B	・家庭教育の手引きを年度当初に全学年に発行することができた。 ・学年に応じた家庭学習時間を達成している児童の割合が上学年・下学年それぞれ80%以上であった。 ・宿題以外の自主学習に取り組む児童の割合が上学年が65%、下学年が78%であり、自主学習の取り組みについては今後学年ごとの工夫が必要である。	B	・学年に応じた家庭学習時間を達成している児童の割合が下学年は81.9%と目標を上回ったが、上学年が73.8%と目標を下回る結果となった。 ・宿題以外の自主学習に取り組む児童の割合が下学年が75.6%、上学年が60.6%であった。年度途中からはタブレットを活用したドリル学習を導入する等工夫を凝らしているが今後もICTを活用した自主学習を促したり、具体的な自主学習の取り組みを紹介したりするといった対応が必要である。		
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳を通し、厳しさに関するアンケートを実施し、「相手を思いやり、優しく接するよう心掛けることができた」児童80%以上を目指す。	・保護者の方に道徳科（8人との関わりに関すること）の授業を学年部で公開する。（ふれあい道徳） ・とすつ子掲示板に定期的に取り組み、児童の心を温かにしている。	A	・全学年が授業参観で親切に関わる道徳を行う計画を立て、既に4学年で実施し2学年が1月に行う予定。 ・95%の教員が親切に心掛けるよう声掛けができた。 ・毎月とすつ子掲示板を更新し、友達や地域の人などへ感謝する時間を設定している。 ・90%以上の児童が親切について考え、大切に感じることができた。	A	・全学年が授業参観で親切に関わる道徳の授業を行うことができた。 ・毎月とすつ子掲示板を更新し、自分への励ましや周囲の人への感謝などを掲示した。 ・95%以上の児童が道徳の学習で「親切」について考え、親切にすることが大切だと思うことができた。		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等）についての組織的対応ができていると回答する職員が100%になることを目指す	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルを確認・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・資料提供を年間に3回以上行う。 ・いじめ事案について学校全体で情報を共有する。	B	・いじめ防止等についての組織的な対応ができていたと答えた教職員が97%である。目標を概ね達成できたといえる。 ・いじめの対応についての研修を夏休みに一度行った。今後2回の資料提供を行うこととする。	B	・いじめについて、教職員の組織的な対応への意識は高いと言える。100%に達することはできなかったが、今後も高い意識をもって取り組みたい。 ・学校生活に対して不安感を抱いている児童・保護者が一定数存在している。教職員同士で連携をしながら、早期発見、早期対応を目指す。		
	●児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と思うと回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・「つなぐタイム」や自学、教室掲示など、個々の児童のよさを評価できる場を積極的に設ける。 ・地域人材を積極的に生かし、様々な体験活動を仕組むことで、児童が夢や目標を持ち、「学校は楽しい」と感じられるようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と思うと回答した児童82%。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童83%。 ・「学校生活について楽しい」と肯定的に回答した児童が低学年では93.6%、高学年では94.9%であった。少数ではあるが、学校生活に充実感を感じている子どもも見られたため、行事や体験活動を通して児童の活躍の場を増やし、自己肯定感を高める。	A	・人権教育の視点から、考えを認め合う「つなぐタイム」を充実させたことや、児童のよさを褒めた「つなぐ賞」を渡したりしたことなど、教師が児童のよさを認める機会が増えた。「先生は、あなたのよさを認めてくれて」と思うという肯定的な回答をした児童は84.6%。 ・年間を通して、学校生活に充実感を感じている児童の割合は高かった。行事や係活動などに積極的に参加し、自己肯定感を高めている様子も多く見られた。「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童は84%。		
	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい学習習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童85%以上	①年間2回、全学年でクラスマッチを開催し、練習を通して運動時間を確保する。学級の児童全員で外遊びをする「みんなで遊ぶ日」を1週間に1回以上行うことを推奨する。 ③栄養教諭と学級担任とのTT授業を行い「健康に良い食事の仕方や内容」を認識させる。食育だよりや給食時の放送を通して、児童・保護者への啓発を図る。	B	①年間3回のクラスマッチを計画し、1学期に一度実施した。週に一度も外で遊ばない児童が10%程度いたため、各学級で体を動かすことの大切さについてさらに推奨し、児童に呼びかけていく。 ③食育のTT授業は、3年と6年で実施することができた。学校アンケートでは、「健康に食事は大切だと思う」児童が83.3%だった。今後も啓発を図る。	A	①85%以上の児童が週に1回以上外遊びを行っていた。今後も体育の学習や学級で体を動かす楽しさを感じさせることを目指す。 ②・食育のTT授業は、全学級で実施することができた。 ・夏休みコンテストを実施したことにより、全学級で正しい持ち方の授業を行うことができた。 ・アンケートでは、「健康に食事は大切だと思う」児童が86.6%だった。 ・食育だよりをほぼ毎月19日に発行することができた。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・成績2期制を有効に活用し、放課後等の業務を効率的に行うことで、昨年度より時間外在校時間を減らす。 ・曜日毎の施設時刻を設定し、教職員一人一人の意識を職場全体に繋げる。（金曜日は原則として定時退勤）	A	・成績2期制になり、1学期末の多忙感が減ったことは実感できた。昨年度と比較して、時間外在校時間が45時間未満の教職員は6月15%増加、7月は増減なし。4～8月の45時間以上を遵守できた教職員は平均80%で、昨年度より4%増えている。 ・19:00の施設時間（金曜日の定時退勤日は17:30）を意識し、声を掛け合って退勤している。	A	・ICTを活用した欠席連絡やドリル学習は、業務の軽減にも大いに繋がった。 ・昨年度と比較し、11月あたり平均0.5時間の時間外在校時間が減少した。 ・19:00の施設時間（金曜日の定時退勤日は17:30）を意識し、声を掛け合って退勤した。 ・保護者との電話連絡が繋がらないため、勤務時間を過ぎて対応している家庭もあるのが現状である。		
	○衛生・安全管理の改善・充実	○職場における事故0を目指す。	・定期的な職員室等の整理整頓と環境美化の時間を設定する。 ・ラインケア、セルフケアの面から教職員のメンタルヘルス対策を行う。	A	・夏季休業期間に職員作業を行い、職員室、倉庫や特別教室等を整理し、安全面と仕事の効率化に繋げた。 ・広報誌を活用し、教職員のメンタルヘルスについて情報提供をしている。また、相談できる体制を整えている。	A	・長期休業期間に職員作業を行い、安全面と仕事の効率化を考えて、整理整頓、環境美化に努めた。 ・広報誌等を活用し、教職員のメンタルヘルスについて情報提供をした。 ・長期休業中は年休を取得しやすいよう、行事の日程を調整した。悩みや意見を話せる職場環境に皆で努めてきた。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
・ラインケア、セルフケアの両面から職員のメンタルヘルス対策を行う。									
重点取組			具体的取組	中間評価			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	達成度 (評価)	実施結果	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開を全学級で年間1回以上行う。 ・保護者等に対する教科「日本語」に係る情報（学年便り、学級通信など）を年間3回以上全学級が行う。	B	・1学期、授業を公開した学級が95%だった。残りの学級は、2学期以降に実施予定。 ・「日本語」に関わる情報を各学年学級懇話会資料に記載した。今後も各学年のお便り等を通して情報公開を行っている。	A	・全学級ではなかったが、90%以上の学級で、教科「日本語」の授業を公開することができた。 ・教科「日本語」に関わる情報を毎学期、学年懇話会資料に記載することができた。（年間3回）		
○特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制 ○研修会開催 ○関係機関との連携	○個別的教育支援計画及び指導計画の作成と学期毎の振り返り、改善等（100%） ○特別支援教育に関する研修（子供支援会毎月1回、校内研修会年4回）	・個別的教育支援計画及び指導計画を作成し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・支援が必要な児童については全教職員で共通理解を図るとともに、支援体制を整えて指導・支援を行う。計画的に校内研修会を開き、特別支援教育に関する理解と専門性を高める。	B	・個別的教育支援計画及び指導計画を100%作成し、85%が個別のニーズに合った支援ができた。夏季休業中に振り返り、改善点についても考えることができた。 ・6月と7月に校内研修会を実施した。必要に応じてケース会議を開き、職員間の共通理解を図った。	A	・個別的教育支援計画及び指導計画を有効活用し、一人一人の児童のニーズに合った支援を84.8%が行うことができた。 ・子供支援会毎月1回、校内研修4回実施。支援が必要な児童については全教職員で共通理解を図るとともに、支援体制を整えることができた。また、特別支援教育への理解も深まり、87.9%が指導力の向上に生かすことができた。		
○開かれた学校づくり	○学校運営協議会の取組の推進	○コミュニティ・スクールのよさを生かし、学校が地域やPTAと連携し、学習支援・行事体験・環境整備・地域安全の確保を行っていると感じた教員・保護者・学校運営協議会委員の回答率85%以上	・学校行事等の積極的な協力依頼（生活科・総合的な学習等の学習支援） ・地域見守り隊による登下校の安全確保 ・活動についての情報公開（コミュニティ便り、HP、メール配信等）	B	・コミュニティ・スクールのよさを生かし、学校が地域やPTAと連携し、学習支援・行事体験・環境整備・地域安全の確保を行っていると感じた回答した教員は78%。更に今後、まちづくり推進センターと情報共有し、地域人材を生かした取組を推進していく。	B	・PTAやまちづくり推進センターと情報共有し、地域人材を生かした取組を推進し、活動の様子学校HPやメールで配信することができた。 ・学級が地域やPTAと連携し、学習支援・行事体験・環境整備・地域安全の確保を行っていると感じた回答した保護者94%、教職員82%であった。 ・地域人材を活用した更なる教育課程の工夫が課題である。		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	①学力向上…つなぐタイムの充実により、児童が互いの考えのよさを認め合い、学びを深めることができた。次年度も、つなぐタイムの質の向上を目指し、児童の思考力・表現力・判断力を高める。 ②開かれた学校づくりの推進…地域人材を生かした様々な体験活動を行うことができた。今年度の取組の成果と課題を明らかにして、更に次年度も活動を増やしていく。 ③教職員の資質向上の推進…小中一貫教育研究発表会が貴重な学びの機会となり、教師の指導力向上に成果が見られた。次年度も、校内研究を柱に、研修の機会を適切に設け、教職員の資質向上を目指す。 ④業務改善・働き方改革の推進…成績2期制の実施により、これまでの通知表作成時期の業務時間を効果的に活用することができた。更に、校時表・授業時数・学校行事等を再検討し、生徒指導や特別支援教育、不登校等の対応に向けた取組の充実を図り、時間外在校時間の削減を推進していく。
----------------	--